

# デザイン思考を用いた 新たな価値を有する家具製品の開発（第2報）

佐藤彰 辛川洋介 平倉茜 川口比呂志

令和2年度

## 背景および目的

成熟した家具市場では、潜在的ニーズを発掘し、これまでにない新たな家具を開発することが重要であり、そのためにはデザイン思考の活用が有効と考えられる。しかし、デザイン思考で最も重要な初期プロセスを県内の家具メーカーが確に実施することは難しいという課題がある。そこで、本研究では当センターにおいて初期プロセスを実施し、新たな価値を有する家具開発の視点やアイデアを家具メーカーに提案する。

## 研究内容

諸富家具産地の製品が少ないライフステージ及び種々のライフスタイルの変化を起点にデザイン思考の初期プロセスを実践し、問題解決のためのプロトタイプを作製した。

## 研究成果

- (1) 高齢期のライフステージを対象とした製品開発  
高齢者は衣類や日用品等をどこに片づけたか忘れてしまいがちになることに着目し、一目でわかりやすく収納できるセミオープン棚のアイデアを提案した（図1）。
- (2) 熟年期のライフステージを対象とした製品開発  
夫婦がそれぞれの空間を欲しがっているとの仮説から、一つの空間を緩やかに仕切るためのファブリックによるスリットを施した仕切りを提案した（図2）。
- (3) 女性の化粧を起点にした製品開発  
ドレッサーが不要なのではなく、普段過ごしている居間で化粧したいとの仮説から、コンパクトで収納を兼ね備えたドレッサーを提案した（図3）。
- (4) キッチン周りの収納を対象にした製品開発  
料理を趣味とする人が増加している中、常時使用する調理器具や家電の置き場所がないことに着目し、見せるためのキッチンボードを提案した（図4）。
- (5) センターキッチン周辺を対象にした製品開発  
キッチン・リビングにおいて、側に置いておきたいが煩雑になりがちな物を使用しない時にはすぐに隠せるよう前面をカーテンにした収納棚を提案した。（図5）



図1 収納棚のプロトタイプ



図2 仕切りのプロトタイプ



図3 リビング用ドレッサーのプロトタイプ



図4 見せるキッチンボードのプロトタイプ



図5 収納棚のプロトタイプ